

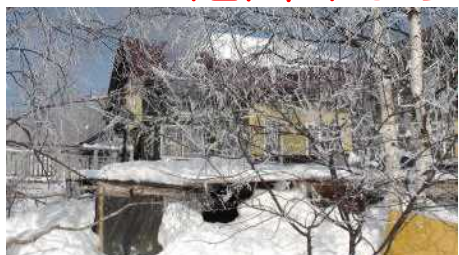
(仮称)

ゆきのさと自由が丘通信

《2020年4月、小学校開校をめざして》

認定 NPO 法人北海道自由が丘学園・ともに人間教育をすすめる会 / 「自由な小学校」をつくる会
札幌市豊平区月寒東 1-15-5-11 ☎(011)858-1711

旭川「びっばら」訪問で元気をもらおう！



2月2日(金)、旭川鷹栖町の「びっばら」へ出前説明会に行ってきました。その日は風もなく快晴でしたが、朝、家を出て途中中幌を通ると冷気の霧が所々かかり、車の外気温計は-23℃に。岩見沢から高速に乗って滝川あたりは-17℃。鷹栖に入ると再び-23℃に。冷気の霧をくぐり抜けて探していると、朝の光を浴びておとぎの国のような「びっばら」が見えました。木の枝には氷の花が咲き、ダイヤモンドダストが煌めいていました。

ちょうど9時半頃に着いて、あずま屋の中で朝のミーティングに参加。スタッフのギター伴奏の歌から何気なく始まり、読み聞かせへ。10名ほどの子どもたちは食い入るような視線でお話に夢中。そのあとスタッフとやり取りがある中で「今日は何の日かな?」「節分!」「節分て何?」「鬼が来るんだよ」「こわい」「戸を閉めて入れなければいいよ」などなど…。10時ころから外に出て雪遊び。そり、ボール遊び、木にぶら下がるなどなど…。



11時過ぎに4人の鬼が登場! キャーキャーいいながら豆をぶつける。思わず二階堂も細田も孫を見ているような目線に…。その後12時過ぎまで、せっかくだから何か作ろうということで二階堂・細田は、スタッフや何人かの子どもたちの手伝いを得てかまくらをつくりました。

12時半ころにあずま屋でお昼をごちそうになってから、13時半ころから母屋の広間に上がらせてもらって、まきストーブの傍らで、代表のりかさんと旦那さんはじめ保護者の方々10名ほどに囲まれての座談会となりました。はじめに細田から「自由が丘学園」のこれまでの活動の経緯、学校づくりの思いをお話しました。参加したみなさんの食い入るような真摯な眼差しから関心の高さがひしひしと伝わってきました。続いて「きのくに」見学VTRを紹介し、「ゆきのさと自由が丘学園小学校」のイメージ・展望などについて質問に答えながらお話ができました。「学校の場所は千歳空港・札幌近郊の自然豊かな所」という展望に対して「旭川にも空港があるし、自然豊かな鷹栖もいいですよ」というメッセージもいただきました。皆さんの真剣さに元気をいただき、子どもたちの元気にほっこりして楽しく豊かな気分で帰途につきました。新たに何名かの方からメールアドレスをいただき、通信や情報提供する共鳴者が増えました。コーディネートしてくださった藤田さん、ありがとうございました。

他の幼稚園・子ども園にも伺います。ご希望がありましたら、ご連絡ください!



めげず、諦めず、支持者・支援者の拡大へ

一昨年から、焦る気持ちと、いやいや機が熟さなければとも思い、何をすると効果的なのか、何から進めていけばいいのか、実は先が見えず、ひまわりの迷路を進んでいるような気持ちになることがあります。校舎を確保したいが、資金のめどが立たず。廃校舎でも手に入れば資金援助もついてくる可能性も、と思ったり。とにかく支持者・支援者を広める中で、何かきっかけを見出していかなければと活動するなかで、昨年は堀さん講演会が実現し一つの足掛かりとなりました。しかし、見通しはまだまです。実は資金的には大雑把に言って、最低1年間の学校運営資金として1億円、廃校なりの校舎が無償で手に入ったとしても、寮を新たに作るならもう1億円という感じです。校舎自体も新たに作るならさらにもう1億円。いったいどこにそんなお金があるのか?

「きのくに」は、支持者の寄付などで何とか1億円近く集め、その先の不足を何ともしがたい、資金の壁を越えられない、とっていたときに「ミキハウス」から無条件の資金援助を得て学校開設が実現したとのことです。そのあたりの事情は堀真一郎さんの著書に書かれています。

「絵に描いた餅」と言われればその通りなのです。「きのくに」をまねて「柳の下の二匹目のどじょ

う」をねらって、北海道版「ミキハウス」を期待するのも難しいでしょう。寮の代わりに地域の理解ある家庭にホームステイをお願いするとか、地域共同体で貨幣経済でない交流関係を生み出すとか、公立学校のなかで、特別人事をして、通学特区にして、自由な学校を実現する道はないか、とも考えたりします。とにかく廃校舎提供などの自治体の動き、奇特的な企業の賛同支援を、まずは支持者・支援者を広めていきながら探るしかないと思います。お金がなければ、はその通りなのですが、貨幣が介在しない共同体ってあるのです。そのイメージは、内田樹『ローカリズム宣言』（榊デコ 2018.1.5）p68 が参考になります。内田樹さんが神戸女子大退官後たてた合気道道場「凱風館」の様子を描いています。

「夢」は思っているだけでは「夢」で終わります。口に出して行動しなければ「現実」にはなりません。「びっばら」でもそんなお話もしました。何と言っても、真摯に共感してくれる方・思いの熱い方にお会いしお話できると、本当に気力が奮い立たされます。めげず、諦めず、運動を継続します。皆様にも、今年も何とかご支援・ご協力・周囲へのお声掛けをよろしくお願いします。

支持者・支援者の方々から

今回は、「きのくに」などを見学してきた奈良真理子さんからのご感想です。

「きのくにこどもの村学園の印象や感想、自分の考え」

先日、四歳の息子ときのかくにこどもの村学園（以降きのくに）に訪問しました。

きのくには、和歌山の橋本駅から車で約 20 分間、山を上り続けた所にあります。小中高の建物が隣り合わせになって、自由に行き来できる開放された風通しのよい空間です。子どもたちと一緒に製作したと思われる建物や装飾・遊具にあふれ、一つ一つが味わい深い魅力を感じ、各部屋に飾られた看板も個性豊かで見ているだけでもいろいろな思いやドラマが伝わってきます。なぜかそこにいるだけでワクワクしてくるのが不思議でした。

子どもたちはとても意欲的にプロジェクトに取り組んでいます。その日は、大作業中の子どもたちが真剣な表情で、金槌で釘を打ち付けていたり、仲間同士のコミュニケーションも盛んに行われたりしながら、一人ひとりが主体的に活動している様子が印象的でした。きのくにでは、自分のやりたいことを自分で決めて、目的に沿って個性を尊重しながら取り組み、学年を超えて子ども同士が関わり合い、生きた学びのできる環境です。そんな子どもたちを見ていると、やる気に満ちたエネルギーや開いた心が伝わってきます。それは、大人が子どもたちとの心の通い合いを大事にし、多様性を認め、分け隔てのない信頼関係を築いているので、子ども達も安心して自分を表現して、子ども達自身が自分の居場所になっているからだと感じました。



<イメージ写真>

私や息子が見たものはきのくにの生活のごく一部です。まだ、他に見えていない部分はたくさんあると思いますが、何より何気ない日々の日常生活の中で、子どもたちの表情が至るところでいきいきと輝き、学び合っている姿が頭から離れず、純粋に感動しました。

息子もきのくにについて『すべり面白かった。みんな楽しそう！こんな勉強したいな〜。』と話しています。この見学を通して、今の息子の思いや考えも知り、お互いに現場を見て、共有できたことを嬉しく思います。

話は変わりますが、先日、偶然にもネットの検索で「第1回 2017 世界子どもサミット」というのを見つけ、拝見しました。それは、若くして才能が芽生えた個性あふれる子どもたちが自身のスピーチやディスカッションをし、子どもたちの親も参加し、テーマに沿って気になる話題を次々と展開するという、面白くて、興味の尽きない内容でした。

私は子どもの型にはめない豊かな創造力は目を見張るものがあると思っています。子どもたちの生の声を集めつつ、自由な学びの場所や、学校づくりも興味のある子どもたちと一緒に一から創造したら、一人一人にとって今の自分に必要な最高の学びの場ができるのでは?!と思いました。また、大人も子どもも一緒になって、学び・育ち合い、まち・社会・環境づくりをし、地球全体の問題をも何世代も先の未来を生きる全ての命のために、今をどのように考え行動し、生きていくことが大事なのか、問い続けていきたいです。

きのくにのように生きることを通して、子どもの幸せを一番に考える学びの場や環境をつくっていきたいと思っています。

以上、きのくにを訪問した印象・感想や私個人の考えを簡単にまとめました。

最後まで読んでいただき、ありがとうございました。

奈良真理子

卒業・修業のつどい、学校づくり座談会

3月17日（土）13:30～北海道自由が丘学園月寒子ども館で「卒業・修業のつどい」があります。巣立ちを励ましに来ませんか。それに合わせて、15:30頃～今後の運動をどうしたら広げ進めていけるかを知恵を絞り合っぎつばらんに話し合う学校づくり（戦略）座談会をもちたいと思います。NPO 関係者だけでなく、ご関心のある方はどなたでも自由に参加できます。月寒子ども館に集う子どもたちのようすを見学がてら、是非いらしてお知恵をお貸しください。